

mt style

M A G A Z I N E

FOCUS!



issue 02 | 2026

FOCUS!

粘着でできること、再発見しよう

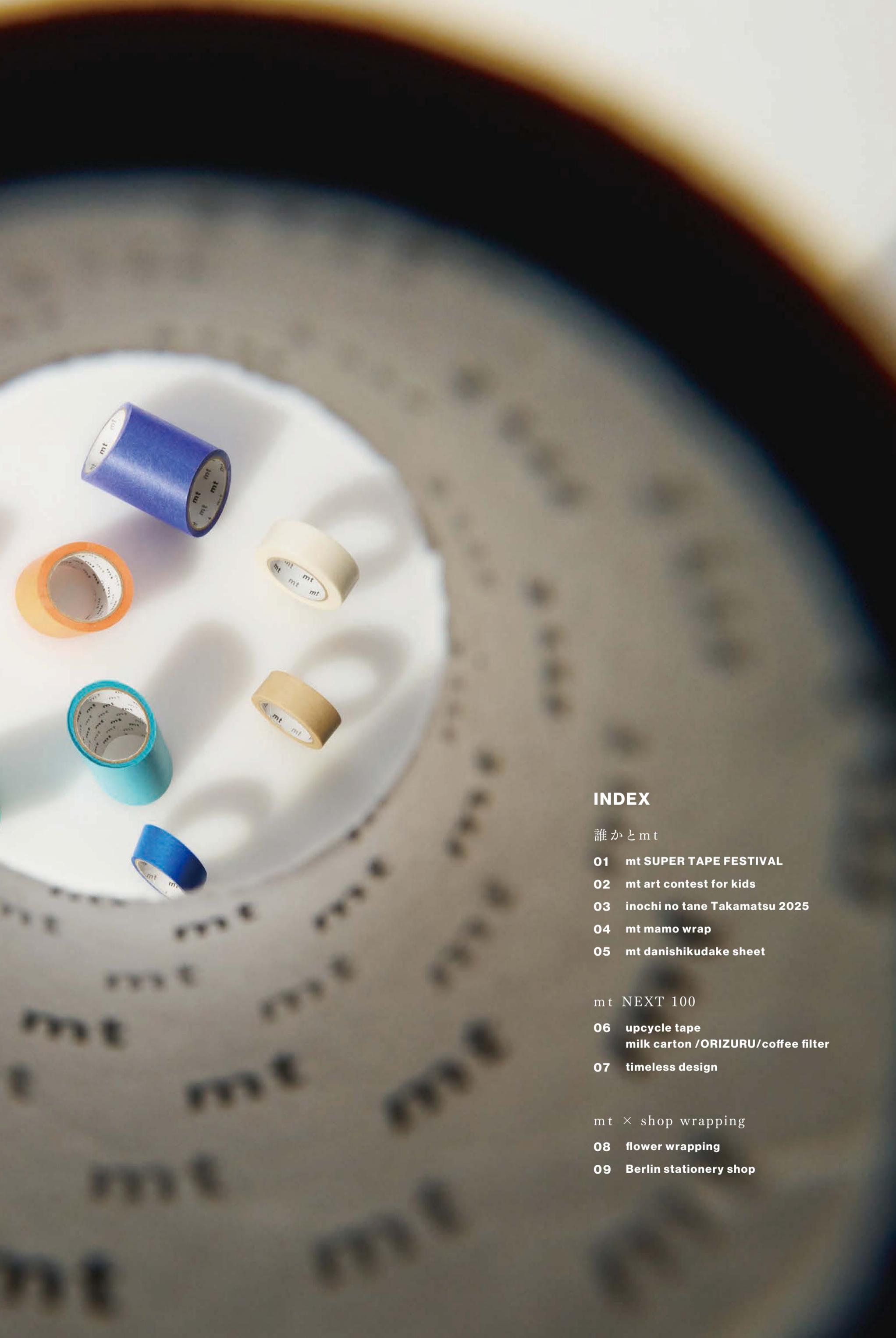
長年mtを愛用いただいている
ベルリンのフィリップ・トイフェル教授から届いた
テープフェスティバル開催に向けた提案書。

そこに書かれていたのは「mt = more than tape」という言葉でした。

mtが時を経て、海を越えて
「くっつく」という用途以上に表現ツールや暮らし道具として
誰かのかかせない存在になっていると感じる
とても嬉しいメッセージでした。

またベルリン芸術大学のワークショップでは
建築を学ぶ学生たちによるmtを使った自由な表現に大変驚かされました。

素材、機能、デザイン……
粘着でできること、mtの可能性はまだまだまだたくさんあるはずです。



INDEX

誰かとmt

- 01 mt SUPER TAPE FESTIVAL
- 02 mt art contest for kids
- 03 inochi no tane Takamatsu 2025
- 04 mt mamowrap
- 05 mt danishikudake sheet

mt NEXT 100

- 06 upcycle tape
milk carton /ORIZURU/coffee filter
- 07 timeless design

mt × shop wrapping

- 08 flower wrapping
- 09 Berlin stationery shop

誰かとmt

粘着技術 × ユーザーニーズから生まれた新しいmt

01.

ヨーロッパ最大級のmtコミュニティがある

ドイツ・ベルリンで出会った

mtの新たな表現の可能性。

2025年春、ドイツ・ベルリンにて「mt SUPER TAPE FESTIVAL」を開催しました。このイベントは「SUPERGRAPHICS」というコンセプトのもと、ベルリン市内全域で展覧会とフェスティバルを同時開催したものです。居山浩二さんによるインスタレーションの展示、ベルリン芸術大学の学生たちによるワークショップ、カモ井加工紙（以下、カモ井）の歴史を展示したコーナー、さらに多数のポップアップショップが出店し、大規模な催しとなりました。

イベント開催のきっかけとなったのは、デュッセルドルフ応用科学大学のフィリップ・トイフェル

教授が15年以上前に日本を旅した際、mtのマスキングテープに出会ったことから始まります。教授にお話をうかがいました。

「私はmtのマスキングテープの半透明な質感と表面の手触りに魅了されました。いくつかを持ち帰り、デザイナーや建築家の友人たちに見せたところ、彼らも私と同じように夢中になりました。その後、ベルリンの文具店『Modulor』がmtを取り扱っていることを知り、継続して使い続けていました」

その後、フィリップ・トイフェル教授からカモ井に「ベルリンでイベントを開催しませんか」とい

うご提案をいただいたことから開催が実現。教授は次のように語ります。

「1960年代から1970年代にかけて、グラフィックデザインを建築に大規模に応用した『SUPERGRAPHICS』というムーブメントが起きました。今回のイベントでは同じテーマをコンセプトに掲げ、mtが空間認識を変え、建築を豊かにする方法を示す場にしたいと考えました。また、カモ井さんの100年の歴史を祝うと同時に、素晴らしいインスタレーションを日本からベルリンへ持ち込む貴重な機会でもありました。



▲ 居山浩二さんによる、マスキングテープを使った吊り装飾のインスタレーション。
居山さんがアートディレクターを務めた「mt SUPERGRAPHICS」は、第59回日本サインデザイン賞にて金賞を受賞しました。

このイベントにおいて、私は尊敬する同僚のガビ・シリッグ教授とともにキュレーションに携わりました。ガビ・シリッグ教授はベルリン芸術大学で空間デザインのクラスを担当しています。ワークショップの一環として、学生たちは明確なコンセプトメッセージを伝える空間インスタレーションを開発しました。なかでも私が最も感銘を受けたのは、mtの素材特性とデジタル製作技術を組み合わせ、独創的に活用した点です。彼らの好奇心と意欲は、建築や芸術の教育においてmtがいかに多用途であるかを証明したと思います。

mtが持つ素材特性はあらゆる可能性を秘めています。より多くのデザイナーや建築家がその可能性を認識するにつれ、mtは、ダイナミックで魅力的な空間体験を生む革新的なツールとしてもますます活用されると確信しています」

ガビ・シリッグ教授も次のようにイベントを振り返ります。「学生たちはビジュアルコミュニケーション専攻出身なので、グラフィックと空間を表現する素材としてmtを使うのは当然の流れでした。そこで『SUPERGRAPHICS』というテーマを選びました。mtは以前から誰もが知っていましたが、これほど多様な幅、色、柄があることには気づいていませんでした。最も刺激的だったの

は、学生たちがmtを平面だけでなく、立体素材、彫刻的素材として扱い、新たなオブジェを生み出した瞬間です。

学生たちは今も教室でmtを使っています。今回は全員で1つのプロジェクトを実現したのですが、今回は、より小さな空間オブジェクトに焦点を当て、各生徒が自身の体験に集中し、素材との取り組みにおける革新性をさらに追求できるようにしたいと考えています。このプロジェクトを実現させてくださったカモ井の皆さまにあらためて感謝申し上げます。ありがとうございました！」

最後に、「mt SUPER TAPE FESTIVAL」のアートディレクションを務め、大規模なインスタレーションの制作に携わった居山浩二さんにもお話をうかがいました。「日本を含めたアジア周辺では、mtのデザインにおいて『かわいい』という世界観を求められることが多いのですが、mtの魅力はそれだけではなく、視覚的にも機能的にも『高いデザイン性』が備わっていることが重要な点だと、最初にmtにかかわった10数年前から考えてきました。欧米向けのアプローチもその辺りを意図したものが有効な場合が少なくなく、特にベルリンの会場は一流の建築家とその周辺の方々

にも貸し出しが許可されるスペースだったこともあり、より高いレベルでmtのデザイン性を訴求しなければ、ということ強く意識して取り組みました。

加えて、カモ井さんの創業から100年に至る歴史紹介の展示も併設する必要があり、『アーティスティックなインスタレーション』と『コンパクトに歴史を紹介する展示』をブレなく、高い完成度で両立させるべく、長時間のプランニングと試作を繰り返しました。結果的に、統一された全体像を作り上げることができたと思います。

また、ベルリン芸術大学の学生たちとのワークショップにも取り組んだのですが、彼らは空間デザインを学んでいることもあり、マスキングテープを単に貼り付けるだけでなく、浮かせたり、布のようにふわりとさせてみたりと、平面的な発想ではないトライアルをしている点に独自性を感じました。長い時間をかけ、最終的に仕上がった展示空間は、刺激のある、新鮮で完成度の高いものになっていました。

イベントの企画および運営にご尽力いただいた皆さま、誠にありがとうございました。今後もさまざまな方法でmtの魅力を世界に届けられるよう、注力していきたいと思っております」

▼学生たちのワークショップ作品。「学生たちはマスキングテープの持つ多様なバリエーションに魅了されていました」とガビ・シリッグ教授。



フィリップ・トイフェル教授
(Prof. Philipp Teufel)

シュヴェービッシュ・グミュントのHfGグミュント・デザイン大学にてビジュアル・コミュニケーションとセノグラフィ(空間演出)を学ぶ。
1985年から1995年までフランクフルトのコンセプトデザイン事務所パートナーを務めた。その後、デザイン事務所「nowakteufelknyrim」のパートナーとして2007年まで活動。

2008年から2017年にかけては「malsyteufel」スタジオの代表取締役を務めた。
2010年から2015年まで、ベルリン王宮のフンボルト・フォーラムにおけるセノグラフィの芸術顧問として支援を行う。
フィリップ・トイフェル教授は30年にわたり、デュッセルドルフ応用科学大学で展示デザインおよびリテールデザインの教育と研究に携わり、現在はドイツ連邦財務省・芸術諮問委員会のメンバーを務めている。
2020年からはレネシュタット庭園博物館のアーティスティック・ディレクターを務めているほか、直近ではアイデンティティ財団と共に展覧会「日本の幸福(Japanese Happiness)」を企画し、発表。
現在は、新しい形態のサイエンス・センターのコンセプト構築に取り組んでいる。



ガビ・シリッグ教授
(Prof. Gabi Schillig)

コミュニケーションのための実験的な空間を創作するアーティスト。
ドイツのコーブルクで建築を学び、フランクフルト・アム・マインのシュテール美術大学(Städelschule)を卒業。
自身の「Studio for Dialogical Spaces(対話空間のためのスタジオ)」における芸術実践の中で展開される彼女のクロスメディアな作品は、国際的な文脈や展覧会で公開されている。
これまでに、シュトゥットガルトのアカデミー・シュロス・ソリチュードやニューヨークのヴァン・アレン研究所をはじめ、数多くの奨学金や賞を受賞。
現在はベルリンに拠点を置き、ベルリン芸術大学の教授として教鞭を執る。
2023年からは日本でも定期的に活動しており、空間、身体、物質性、そして「柔らかさのトポロジー(topologies of softness)」の多様な絡み合いについて、芸術的リサーチを続けている。

02.

子どもはみんなアーティスト。
失敗してもいい。自由でいい。
未来を描く力を育みたい。

全国の保育園・幼稚園などを対象に、
mtを使って一つの大きな作品をみんなで制作する
「mt art contest for kids」を開催。
予想をはるかに超える584もの施設からエントリーをいただきました。



「ちきゅうのまわりをいっぱいあるこう」
神奈川県／学校法人峰岡学園 認定こども園峯岡幼稚園



「出発進行!!」
宮崎県／ひとつせ保育園



「ぼくたち、わたしたちの水族館」
大分県／王子町保育園

子どもたちに表現力と想像力を育ててほしい——その思いから、カモ井はコンテストにエントリーいただいた全施設に、「mt workshop tape box」「mt heta box」「ターポリンシート」をお届けしました。それぞれの個性が光るすてきな作品を多数応募いただいた結果、下記3点の作品が「mt賞」に選ばれました。

- ・「出発進行!!」(宮崎県／ひとつせ保育園)
- ・「ちきゅうのまわりをいっぱいあるこう」(神奈川県／学校法人峰岡学園 認定こども園峯岡幼稚園)
- ・「ぼくたち、わたしたちの水族館」(大分県／王子町保育園)

mt賞入選にあたって、それぞれの施設の方からいただいたコメントの一部をご紹介します。

1つ目の「出発進行!!」は、子どもたちが自由な発想で「電車」を表現した作品です。

「みんなで一つの作品を仕上げるというコンセプトが魅力的で応募しました。実際に取り掛かってみると、子どもたちが色合いや形を考え、楽しそうにいきいきと制作する姿が見られました。豊富な種類のマスキングテープに触れるだけでもワクワクするのに、それを手でちぎったり、切ったりして貼るという簡単な方法で、いろい

ろな形が目に見えてできあがっていくところがよかったです。失敗しても貼り直せるので、子どもたちが集中して取り組めていました」

2つ目の「ちきゅうのまわりをいっぱいあるこう」は、「宇宙と星」を題材に「あったら楽しいもの」を集めた作品です。

「テーマについては、身の回りで作りたいものを子どもたち自身で探して意見を出し合いました。『預かり保育』のため、日々利用する子どもが違うという状況のなかでも、「風景」をテーマにすれば一人ひとりの想いを集めて絵にできると考えました。のりやボンドなど用意するものがなく、気軽に取り組むことができた点、イメージと違ったら貼り直せる点、いろいろな柄や色があり、さまざまな工夫ができる点がよかったです。『優勝』という目標を掲げて一致団結し取り組んだのですが、子どもたちの想像力や集中力に驚きました」

3つ目の「ぼくたち、わたしたちの水族館」は、海の生きものについて図鑑で学びながら「水族館」を表現した作品です。

「子どもたちにとって新鮮で特別な体験になると考え、応募しました。みんなの『作ってみたい』という気持ちを大切にしながら、意見をつなげていくなかで、水族館というテーマに決まり

ました。色や形の組み合わせを考えながら制作することで、想像力や表現力が育まれ、『ここに貼りたい』と自分で考えて手を動かす姿が多く見られました。一つのテーマに向かって制作したことで、友だちの作品に興味を持ったり、アイデアを認め合ったりする姿が見られ、協同性やコミュニケーションの育成にもつながりました」

mt賞に選ばれた皆さま、おめでとうございます!子どもたちの表現力の豊かさに驚かされる、力作ばかりでした。ほかにも厳選した44作品をmtのWEBサイトに掲載しております。こちらも合わせてご覧ください。



mt art contest for kids 特設サイト
<https://www.masking-tape.jp/mtartcontestforkids/>



各施設にお送りしたワークショップ用mtと、「ヘタ」の詰め合わせ。
mt workshop tape box(1.2kg入) /税込 ¥5,500、mt heta box /税込 ¥550

03.

一粒の小さなタネだけでは
何も起きなくても、
たくさん集まれば大きな力になる！

mtを使ったホスピタルアートプロジェクト「いのちのたね Takamatsu 2025」が、香川県にある「高松市立みんなの病院」にて開催されました。

医学博士、脳神経外科専門医である永廣信治先生と永廣佳先生が設立された、特定非営利活動法人コミュニアルが続けているプロジェクト。全国各地で続けられて、今回が4回目になります。

コミュニアルでは主にマスキングテープを使って、多くの人が参加できるホスピタルアートを制作することで、病院の患者さんやご家族、職員さんはもちろんのこと、企業や奉仕団体等とも連携して、地域全体でホスピタルアートの導入を支える仕組み作りをおこなっています。今回は永廣佳先生にお話をうかがいました。

2025年のテーマ「いのちのたね」は、今回アートディレクターにお迎えした平木美鶴さんの絵に描かれたモチーフから発想が膨らんだそうです。

「『タネ』としているモチーフは、実は初めから『タネ』として描かれていたのではなく、魚、葉っぱ、雲、目、口、宇宙船……さまざまな形に見え、モチーフを集めると、いろいろな形ができます。それが1つだけではなくて、みんなが集まることで花が開いていくようなイメージが湧いてきました」

形を決めずに、流れとか動きを生み出そうというのは平木さんのアイデア。この小さなモチー



フがいのちの源になって、病院にいる患者さんや職員さんやすべての利用者の方にとって何かの力になればという想いが込められています。

「手作りのモチーフは個性があって、一つひとつが生命力を宿しています。しかし、それが集まることによって、また何か別のものが生まれます。見た人がいろんな想像をして、その人の心に何か生まれればそれが一番いいことだから」と佳先生。

目の端に映ったときに幸せが感じられる、優しく自由で、さりげないアートをと考え、制作されたそうです。

病院の周りには何もなく、見晴らしも景観もよいため、窓ガラスに描く際には、それを邪魔しないように配慮され、2階から眺めると山々や空とアートが一体化して見えます。アートがあることによって、目が窓に行くので、余計にのどかな風景も見えてしまいます。

病院にいるときは、ちょっと落ち込んで俯いていたり、焦って目的の場所ばかり探していたりしがちですが、ふと見上げたら、鳥が今飛んでる！など、大きな窓に視線を向けて、心をほぐしてもらえたらすてきですね。

今回はオンライン、オフラインそれぞれのワークショップを重ねて、のべ630枚の「タネ」を集め、さらに地域の方々が作った170枚のモチーフを加えて最終的に1つの作品に完成させました。これからもコミュニアルの輪が広がることを願っています。



特定非営利活動法人コミュニアル
<http://communart.net/>



小さな子どもから大人まで、初めての方でも気軽にアート制作に取り組めるのがmtの良さ。手も汚れません。



大きな窓に描かれたホスピタルアートは、俯きがちな視線を自然と窓の外へと誘い、リラックスを促す役割を担っています。

04.

子どもの「描きたい気持ち」を止めない。
壁や床に貼って自由に描ける新アイテム。

ママ・パパの汚れる心配を解決し、子どもにのびのびと育てほしい。そんな願いから生まれたのが、真っ白のお絵かきシート「mtまもラップ白」です。



株式会社赤ちゃん本舗 商品本部で店舗販売用の玩具・文具を選定し、仕入れや交渉を担う里村 満里菜さん。日頃、お客さまからご意見をいただくなかで、次のような意見が多く寄せられていたと言います。

「ママやパパから『子どもがお絵かきをするときに、壁や床への汚れが気になる』という声をよくいただいていた。汚れることが嫌であまりお絵かきをさせない、お絵かきの際は常にお子さまを見守ることが大変、ときにはお子さまに注意してしまうなど……。実際に店舗では『水で落とせるクレヨン』など、汚れを落としやすいアイテムが売っていたのですが、ママやパパには『もっと子どもにのびのびと自由にお絵かきをさせてあげたい』という想いがあるように感じていました」

あるとき、同じ株式会社セブン&アイ・ホールディングスのグループ会社であるロフトから紹介され、「mtまもラップ」の存在を知ったという里村さん。柄が入っていた既存の商品ではなく、全面を白くした新アイテムの開発をご依頼いただくことになりました。

「『mtまもラップ』は、字を書いたり色を塗ったりできる素材で、すでに『点つなぎ』柄や『ぬりえ』柄がありましたが、より低月齢のお子さま

に特化させた商品があるといいのでは、と考えました。そこで、あえて真っ白でお子さまが自由に描けるアイテムの開発をカモ井さんに依頼させていただくことになりました」

そうして誕生した「mtまもラップ白」ですが、その反響は大きいと里村さんは言います。「お客さまにしっかり伝えたいとの声もあり、各店舗ごとに工夫をこらした売場を作ってくれています。『mtまもラップ白』はお絵かきに特化させた商品ですが、お食事関連の売場でも展開し、お子さまがケチャップなどをこぼしても大丈夫なランチョンマットとしても使用できるということを訴求した店舗もあります。そういった取り組みの成果もあり、毎月300点ほど購入いただける商品になりました」

普段から、お客さまの不満を解消しつつ、他にはない付加価値をつけた商品開発を目指しているという里村さん。今後もカモ井の粘着技術を活かして、実現してみたいアイデアがあるといます。

「たとえば、『コンロとシンクの絵が描かれているシート』などはどうでしょうか。プレイマットとして、コンロの絵の上におもちゃのフライパンを載せておままごとを楽しむ……みたいな

こともできそうですね」

小さな願いに耳を傾けることが、次の“あたりまえ”を作る——お客さまの声をかたちににする挑戦は、これからも続いていきます。



好きなところに貼って自由に描けるので、お子さまの「表現の自由」が広がります。mtまもラップカッター詰め替え用 200mm×7m / 税込 ¥748



もちろん、壁以外に貼ってもOK。食べこぼし予防のシートとしても使えます。新しくサンリオコラボ柄も発売中。

05.

一〇〇年培った粘着技術が家庭を守る。
人にやさしい「ダニ敷くだけシート」
開発の舞台裏。

「殺虫」ではなく「捕虫」だから、赤ちゃんやペットにもやさしい。養鶏場で培われたダニ捕獲技術を応用した確かな品質 & 安心設計が、暮らしの快適さを支えます。

日々の暮らしをより快適にするため、創業から培ってきた技術を活かすことはできないか——その想いから生まれた「mtハウスクエアシリーズ」が、生活のさまざまなシーンで役立っています。その一つが布団やカーペットに発生するダニを捕獲するシート「ダニ敷くだけシート」です。製品の開発に携わった研究開発部の北野がその経緯を語ります。

「当社は2015年に、養鶏場の鶏を吸血するダニの一種、ワクモを捕獲するための『ダニ取りシート』の特許を取得しました。その技術を応用し、2018年から一般家庭向けの『ダニ敷くだけシート』の開発を始めました。

養鶏場では、誘引剤がなくても鶏の近くに『ダニ取りシート』を設置するだけでワクモを捕獲することができます。しかし一般家庭に生息する、吸血性以外の塵性(じんせい)ダニは、誘引剤がないと捕獲できません。そのため、製品開発にあたって最適な誘引剤を見つけるのに苦労しました。また塵性ダニはワクモよりも体長が小さく、これまでの『ダニ取りシート』では、不織布繊維のすき間から外へ出ていってしまう可能性がありました。そこで、目の細かい不織布カバーに『ダニ取りシート』を入れることで、誘引剤に誘われて入ったダニが、すき間から出にくい構造とな

り、問題を解決しました。こうした改良を経て、『ダニ敷くだけシート』が完成。2022年に販売を開始しました」

このシートならではの強みを、開発者の目線から語ります。

「香りは強くなく、いやな臭いもしないため、シーツやカーペットへの臭い移りが非常に少ない点が特長です。また、シート1枚の薄さが約5mmと、布団などの下に敷いても厚みを感じにくい程度の厚みになっています。創業当時のハイトリ紙からの技術を活かした、捕虫用のやさしい粘着剤を使用しているため、入ってきたダニが不織布の奥にある粘着剤に触れることで、しっかり捕獲してくれます。

当社の捕虫粘着シートは殺虫成分不使用で、安心・安全をうたっています。そのため、この『ダニ敷くだけシート』も安全面を考慮した設計のもと開発しました。誘引剤も食品添加物用の香料を使用していますので、万一なめでも問題ありません。

今後の取り組みとしては、虫を捕まえるだけでなく、虫を寄せ付けない製品や、最近増えているコバエ向けの捕虫製品の開発にも力を入れていきたいと考えています」



養鶏場で磨いた独自の粘着技術を原点に、時代や暮らしの変化に寄り添いながら、これからも生活に安心と快適さを届けてまいります。



化学殺虫成分は使用していないため、赤ちゃんやペットのいる家庭でも安心して使える、やさしい設計です。ダニ敷くだけシート3枚入 / 税込 ¥605



布団だけでなく、カーペットや押し入れ、ベッドの寝床など、気になるところに使えます。



mt NEXT 100

これから先の100年に向けた
廃材を活かし、新たな価値を生むプロジェクト

06.

牛乳パック、折り鶴、
コーヒーフィルター……
「くつつく」で廃材に
新たな価値をプラス。

長年培ってきた粘着技術と、紙に関する研究実績を活かし、再生紙を使ったマスキングテープの開発に取り組んでいます。

便利さを追い求める時代から、心の豊かさを大切にする時代へ。カモ井では現在、廃材で作られた紙をテープ資材として活用するプロジェクトを進めています。その代表的な取り組みとして、牛乳パックや折り鶴、コーヒーフィルターを素材としたマスキングテープの開発があります。開発に携わった研究開発部の山下と松本、宮地がその背景を語ります。

まずは、牛乳パックを活用した「牛乳パックマスキングテープ」開発のきっかけからご紹介します。「『牛乳パックマスキングテープ』には、牛乳パック由来の古紙パルプを使用しています。当初は牛乳パックの工場内で発生する損紙を再生していましたが、現在はより再生難易度の高い、市中回収された牛乳パックを原料としています。牛乳パック用に処理されたパルプは繊維同士が塊になりやすく、そのままマスキングテープの紙として使うと、もろく破れやすくなってしまいます。今回は、通常のマスキングテープよりもさらに強度が高く、破れにくいテープを目指していたため、別の材料と組み合わせるなど、製造方法に工夫を重ねました」



もう一つの取り組みが、折り鶴を再生した「平和おりひめマスキングテープ」です。

「『平和おりひめ』は、広島市平和記念公園の『原爆の子の像』に捧げられた折り鶴を再生紙としてよみがえらせた紙です。マスキングテープには、被着体に貼れた上で、きれいに剥がせる再剥離性が求められるのですが、通常の紙では、テープを巻き出す際や剥がす際に、紙の表層が薄く残ってしまうことがあります。そこで当社では、まず『平和おりひめ』の紙の強度を高めるところから着手しました。材料の選定や加工方法を工夫し、さらにテープ加工時には、粘着力と巻き出しのバランスにも配慮しました」

また、上記の取り組みに加え、廃材のコーヒーフィルターを再生した「mt upcycleテープ」も、扶桑社『文房具屋さん大賞2025』のマスキングテープ賞1位を獲得するなど、多方面からご好評をいただいています。

「『mt upcycleテープ』は、マスキングテープ用の紙を製造している会社が、同時にコーヒーフィルターも製造しており、その会社との打ち合わせの中で生まれました。コーヒーフィルターは特徴的な形状に抜き加工されているため、必ず大量の端材が発生します。用途上、水に強い紙であることから、再生紙へのリサイクルは難しかったのですが、材料メーカーの技術進歩により可能になりました。

コーヒーフィルターの紙には、晒し(さらし)の白と、未晒(みさらし)の茶色の2種類がありますが、端材の量は毎回異なるため、リサイクルすると紙の色味がやや変わります。この点も再生紙ならではの風合いとしてとらえ、あえてそのままの色を活かした商品にしました」

環境に配慮した商品開発が課題となっている昨今。カモ井でもそれに対応した開発を進めています。



「特にヨーロッパでは環境対策が進んでおり、FSC取得商品しか扱わないという流れがあるようです。当社でもこの流れに対応し、ヨーロッパ向けにはFSC対応商品を販売しています。また、その他の地域でも、ご要望があれば対応できるよう体制を整えています。

また近年は、プラスチック分野でも、バイオマス材料や生分解性材料への関心が高まっています。当社では、粘着剤などに使用するプラスチック材料について、バイオマス材料の準備を進めています。さらに、フィルムを紙に置き換えることで減プラスチックにつながるため、従来プラスチックを使用していた場面において、紙に置き換えた商品の提案を行っていきたくと考えています」

最後に、今後のアップサイクルへの展望を次のように語ります。
「現在は、七夕飾りや生花、木の剪定枝などの廃材を活用したアップサイクル紙の提案もいただいています。廃材ならではの風合いを活かしたテープや、地域の特産と結びついた素材を使うことで、その地域の発展に貢献できるようなテープを今後も開発していきたいです」

100年の歴史の中で培った粘着技術を活かし、今後も持続可能でストーリー性のある商品作りを目指します。

PICK UP!

オリジナルのエコな包装資材、ノベルティ制作が可能に。

オリジナルのマスキングテープをネットで簡単にオーダーできる「my mt factory」では、テープ基材に「通常の和紙」に加え、コーヒーフィルターの廃材をリサイクルした和紙をお選びいただけます(大ロットのみの対応)。また、ダンボールに貼ったままでもリサイクルができる梱包用のエコ資材として注目されている「水貼りテープ」もオリジナルでオーダーいただけます。くわしくはmtのwebサイトをご確認ください。



my mt factory 特設サイト
<https://www.masking-tape.jp/originalTape/>



07.

timeless design

変わらない美意識をテープに託して。

mtは誕生以来、個性豊かな世界のイラストレーターや画家、絵本作家、テキスタイルデザイナーなど世界中から愛される多くのブランドやアーティストたちとこれまで多くのコラボレーションを実現し、すばらしいクリエイションに出会うたびに、私たちが表現の壁を越えて進化し続けてきました。

長年愛され続けるモチーフやパターンをmtに映し出すことで、美しいデザインを現代のライフスタイルに気軽に取り入れることができます。

たとえば誰かにメッセージを送るカードやラッピングに。普段持ち歩いている手帳やブックカバーに。思い入れのある収納ボックスのリメイクに。

日常を大切に美しくありたいと願う気持ちは、現代の暮らしにも通じる、変わらない価値観として息づいています。mtは美しいデザインを未来へ受け継いでいきます。



THE ORIGINAL
MORRIS & Co

FOUNDED BY WILLIAM MORRIS IN 1861

William Morris

ウィリアム・モリス

19世紀後半の英国において、アーツ&クラフツ運動を牽引した偉大なデザイナー、詩人、思想家、工芸家であり、モダンデザインの父とも呼ばれるウィリアム・モリス。モリスは、“モノ創りの喜び”と“素材の自然美”に大きな価値を見出し、この運動が彼の信念として世界に広まりました。やがてそれは日本においても大正時代、“民芸運動”の中で伝えられたのです。

LIBERTY

リバティ

1875年、創業者アーサー・ラセンビー・リバティがロンドンに開いた一軒の店。それは、美しいものを世界から集め、人々に新しい発見を届けるための出発点でした。以来、リバティは革新と芸術、クラフツマンシップに彩られた歴史を紡いできました。ロンドンのデザインスタジオでは、熟練のアーティストたちが数多くのアートワークを手描きで生み出し、60,000点以上のアーカイブとともにブランドの世界観を支えています。

The print designs are copyright Liberty Fabric Limited 2025



irohana

いろはな

わたしたちの毎日をもっと美しく、もっと楽しく。「いろはな」はくらしを華やかに彩るためのデザインブランドです。かつて着物のデザインの見本となった、図案の数々を高度なスキャン・修正技術によりそれらを忠実にデジタルデータ化。一度は役目を終えたデザインたちに再び、新しい命を吹き込みました。いろはなはインテリアを中心としたさまざまなシーンに向け、これからも日本の伝統的なデザインを提案していきます。



mt archive tapes, events, and posters

限定デザインの
mt 100種類を復刻販売！



創業103年目のカモ井加工紙が贈る、mt masking tapeの振り返りイベント「mt archive」。2008年に文具・雑貨向けマスキングテープとしてデビューしたmtは、これまでに10,000種類以上のマスキングテープの販売、国内外100を超える会場でのイベントを開催してきました。

mt archiveでは、そんなmtの歩みを振り返る取り組みとして、過去に開催した大型イベントを紹介。過去のイベント限定テープやポスターデザインの復刻を通じて、mt誕生初期からのユーザーの皆さまも、最近mtを知ったお客さまも、それぞれの角度でお楽しみいただける内容となっています。

mtで生み出されたデザインはすべてmtブランドのかけがえのない軌跡であり、宝物です。mtのデザインが時代を超えて長く愛されるよう、これからも大切に届けていきます。



mtイベントでいつも作成している、各会場デザインをモチーフにしたイベントポスターを小さくしたポスターカードを受注販売。イベントの思い出と併せてコレクションできる仕様になりました。



会場で販売するポスターカードや、登録会員に届くイベントDMを保管できる専用のファイルとリフィルもご用意。無地のリフィルはファイリングしたイベントポスターカードとリンクした限定マスキングテープでデコレーションすることもできます。



mt × shop wrapping

紙と粘着でショップラッピングをもっと表現豊かに

08.

工業用マスキングテープのノウハウから
耐水性も美しさも兼ね備えた
エコなフラワーラッピングを実現。

従来のプラスチック素材の代わりに、
紙製のラッピングへの切り替えが進む昨今。
カモ井では、マスキングテープ原紙製造の技術を活用し、
フラワーラッピングアイテムの開発にチャレンジしています。



粘着技術だけでなく、テープ作りで培ってきた「紙」の知識は、さまざまな分野で活かされています。その一つがフラワーラッピングです。花束を包むビニールや、花束を入れる円錐形の袋を「紙」で作りたい——そのような声に応える形で、開発を進めてきました。マスキングテープはもともと工業用として、建築現場や塗装作業などで使用されてきました。そのため、水に強く、薄くてなめらかでありながら、強度を備えている点が特長です。

そうして販売を開始した「mtラッピングロール」は、マスキングテープ原紙を用いた、耐水性と撥水機能を備えたラッピングペーパーです。和紙でありながら水に濡れても破れにくく、花束を包む際に、耐水性のフィルムを使わず、紙だけで仕上げるエコなフラワーラッピングを可能にします。

表裏ともに美しい発色を楽しめるのは、含浸(がんしん)という方法で着色されているため。今回は、このアイテムを他社品と比較した上で導入していただくことが決まった、株式会社日比谷花壇のコーポレートサービス部、小泉さんと花野さんにお話をうかがいました。まずはmtのマスキングテープとの出会いについてうかがいます。

「マスキングテープにはさまざまなメーカーのものがありますが、そのなかでもmtマスキングテープは、バリエーションが豊富でデザインもすてきなものが多く、以前からよく使わせていただいていたんです」

普段から花束を包む際に大切にしているポイントについては、次のように話してくださいました。

「お客さまの用途に合わせたカラーリングや、素材感(耐水性、傷のつきにくさ、包みやすさ)を大切にしています。ラッピングについてお客さまから細かなご指定をいただくことは少ないですが、花束に合ったラッピングの色選びや、花を最大限に引き立てるボリューム感、包み方を意識して作っています」

フラワーショップ向けアイテム「mtラッピングロール」を実際に使用した感想は——。

「実際に使ってみて、紙という素材でありながら耐水性が高い点と、花に合わせやすいカラーバリエーションがある点が魅力だと感じました。また、握ったときにワックスペーパーのようなシワが入らないところも気に入っています。今後はもう少し厚手のタイプもあると嬉しいです」



マスキングテープ原紙ならではの耐水性と撥水機能を備えた和紙のラッピングペーパー。やわらかな透け感も特長です。
mt ラッピングロール 625mm×15m / 税込 ¥2,520

09.

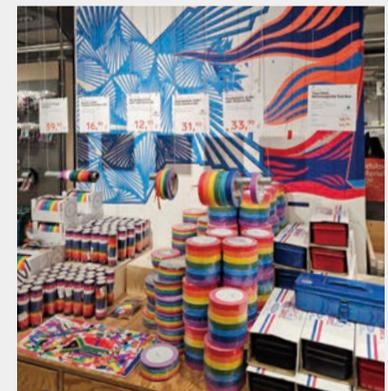
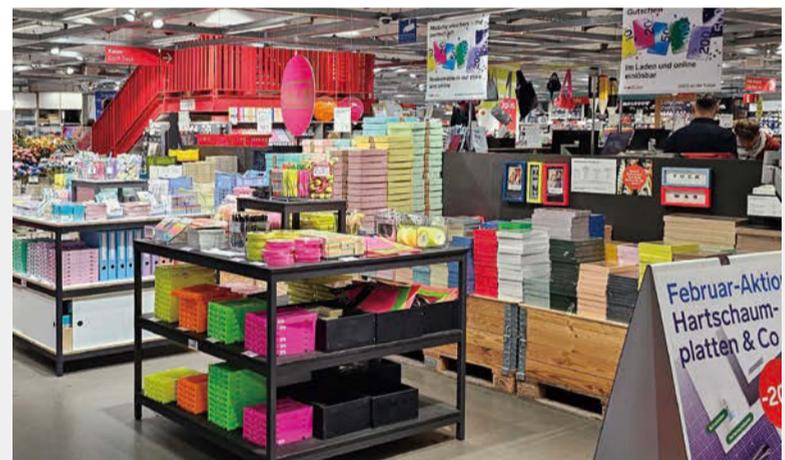
mt SUPER TAPE FESTIVALで訪れた ベルリンの文具店「Modulor」

プロのアーティストやデザイナーも利用する
画材・文具・DIY用品の専門店。
ジャンルの枠を越えて色で魅せる、
デザイン心あふれるディスプレイに目を奪われました。

巨大な店内に豊富な品揃え。アートの材料やドイツらしい機能的な文具まで、創作に必要なあらゆるアイテムが見つかるベルリンの人気店です。店名は建築家のル・コルビュジエが提唱した寸法体系「モデュロール」に由来しており、その名にふさわしい機能美あふれる商品が多く並びます。

デザイン性の高い商品を多く取り揃えており、歩くだけでも楽しく、つい時間を忘れてしまいます。専門的な画材だけでなく、樹脂、真鍮などホームセンターにあるような実質的な素材まで、多岐にわたる材料が手に入ります。またアート系やDIY系の書籍も豊富で、誰かの作りたい気持ちに寄り添う場所であると伝わってきます。

アーティストやデザイナーが求めるような、少し専門的で質の高い商品が多くセレクトされており、mtも長年取り扱っていただいています。



文具自体が単なる「商品」ではなく「表現ツール」として魅力的に紹介されており、ジャンル別ではなく、色の集合体として感覚的に美しくディスプレイされていた様子に日本との大きな違いを感じました。

ドイツの文具愛、DIY愛を感じる店づくりに刺激を受けました。これからもmtは生み出す商品に愛情を注ぎ、丁寧に届けていきたいと実感しました。



【Modulor】
<https://www.modulor.de/>



mtのアートディレクターを務める居山浩二さんによる
プロダクトデザイン「diagonal cut tape」。
この商品は日本のアートディレクション2025 ADC賞
を受賞しました。



カモ井加工紙株式会社
〒710-8611 岡山県倉敷市片島町236
TEL:086-465-5800
FAX:086-465-5860
E-mail:contact@masking-tape.jp

www.masking-tape.jp



mt
masking tape